

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年3月8日

社会福祉法人バオバブ保育の会 御中
バオバブ保育園

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	バオバブ保育園			
事業所連絡先	〒	206-0002		
	所在地	東京都多摩市一ノ宮一丁目20番地3		
	TEL	042-375-4640		
事業所代表者氏名	山根 孝子			
契約日	2022年	8月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2022年	9月	16日	
利用者調査結果報告日	2022年	11月	29日	
自己評価の調査票配布日	2022年	9月	2日	
自己評価結果報告日	2022年	11月	29日	
訪問調査日	2022年	12月	6日	
評価合議日	2022年	12月	6日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して毎日を過ごす中で心身ともに健やかに育っていく場となる ・保護者が安心して子どもを預けることができる場となる ・保護者と子どもへの思いやりや情報の共有に努め、共に育てる関係となるよう努める ・職員同士が思いやりや情報を共有し、協力して仕事を進め、保育者として共に育って行けるよう努める ・園が持つ機能や設備を地域の子育て家庭にできる限り開放し、地域の子育てに貢献できるよう努める
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの側、保護者の側に身を置いて考え、思いを汲み取り沿おうとする。保育の過程を振り返り、同僚とも話し合い、次はどうあったら良いかを構想しようとする。自らを磨き向上していこうとする。職員集団の一員として、自らの位置を理解し、園全体の向上を目指そうとする。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育園が子どもの幸せ、子どもの健やかな育ちを守る砦であること、一人一人がその砦を守る一員であるとの意識を明確に持って、その役割を果たしてほしい。その役割を果たすための組織的努力、個人的努力はどうあるべきかを常に考え積極的に行動してほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯103(在籍児童数124)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	124
利用者家族総数(世帯)	103
共通評価項目による調査対象者数	103
共通評価項目による調査の有効回答者数	65
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	63.1

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」61.5%・「満足」35.4%の計96.9%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「整理整頓・清潔」など全17問中14問で80~90%台の高い支持を得ている。自由意見では「自然の中でのびのびと遊んだり、自分たちで気づいたり学んだりする環境・機会を作ってくれ、子ども一人ひとりのペースを大事にし、無理なく過ごさせていることがありがたい」「子どもの興味や気持ちに寄り添ってくれ、自然・食べ物に触れ、とても大切なことを楽しいと感じながら学ばせてもらっており、何より毎日保育園が楽しいと子どもが帰ってくること、命を守って保育をしてくれていることは、本当に感謝している」「子どもの気持ちや状態を尊重して接し、子どもの育ちを長い目で見てくれ、大らかなところ、保護者の悩みにも寄り添ってくれるところがよい」「園庭が広く、小さい頃から土に触れることができ、年長との交流もあり、顔を見ると手を振ったり面倒を見てくれたりするなど、素敵な環境だと思う」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、保健衛生面や保護者への情報発信に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	63	0	1	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.4%、「いいえ」が1.6%となっている。自由意見は20件で、「コミュニケーション能力がぐんと伸び、保育士が皆適切な受け止めや声かけをしてくれているおかげだ」「合宿では、なかなか経験できないことができ、普段から仲間と相談しながら決めるなど、相手意識を持った活動が多い」「散歩や園庭での遊びも含め、子どもをのびのびと育ててくれる保育園だ」などのほか、活動内容等に関する保護者への情報発信について、さらなる検討を望む声があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	63	1	1	0
「はい」が96.9%、「どちらともいえない」が1.5%、「いいえ」が1.5%となっている。自由意見は15件で、「帰宅後とも楽しそうに今日のできごとを話し、工作を家でもう一度やることもある」「室内では大好きな絵本やお絵描き、栽培したものを調理して食べてみるなどをし、屋外ではほぼ毎日の散歩など、家庭ではしてあげられないことを経験させてもらっている」「語彙が増え、子どもの精神状況に合わせて対応をしてくれていて、助かっている」などのほか、日中の活動内容や保育者の関わりについて、さらなる工夫を望む声があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	62	3	0	0
「はい」が95.4%、「どちらともいえない」が4.6%となっている。自由意見は24件で、「野菜が苦手だが、以前枝豆が入った手作りさつま揚げを食べたと聞いており、素材を活かしつつも、いろいろな食材が身体に入っていけるように工夫されている」「大変偏食だが、食べさせ方など多方面において工夫を凝らしてくれ、諦めずに行ってくれ、園ではほとんどのものが食べられるようになり、配慮に感謝でいっぱい」「とってもおいしいと話している」などのほか、食事提供の方法や提供量について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	60	2	1	2
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が3.2%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は14件で、「庭遊びや遠足はもちろん、部屋で虫を飼ってくれたり、プランターで野菜を育てていたりしており、家ではできないことをやってくれてとても感謝している」「公園や園庭で草や虫の観察等をしたレポートを見たほか、イベントでも自然との関わりを大切にしている内容が企画されている」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む内容や、それらが制限される一因ともなっているコロナ禍に言及する声があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	46	7	0	12
<p>「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が13.2%となっている。 自由意見は12件で、「急な残業が多いが、ギリギリでの連絡になってしまった時も快く引き受けてくれた」「アプリも活用して、連絡方法もとても効率的で、とても感謝している」「ほとんど急をお願いしているが、柔軟に対応してくれ、感謝している」「何度も迷惑をかけているが、働く母を応援してくれる」などのほか、お迎えの遅れの連絡方法に関する声があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	17	6	0
<p>「はい」が64.6%、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が9.2%となっており、「はい」の値は前回(2019年度・以下同、48.3%)から改善されている。 自由意見は19件で、「ちょっとしたケガも細かく報告してくれる」「これまでに目立ったケガはない」「ケガはあるが、大ケガではないので対策に心配はない」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、設備面や感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	40	20	2	3
<p>「はい」が64.5%、「どちらともいえない」が32.3%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は12件で、「早めに連絡をくれる」「行事の日程は前もって教えてくれ、面談は希望を聞いてもらえるので、困ることは今のところない」「保護者が参加しやすい曜日を選択してあると思う」などのほか、行事の日程等における各家庭の負担・就労等への配慮や、コロナ禍の影響による行事の減少・休止等について、さらなる検討を望む声が寄せられている。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	57	6	2	0
<p>「はい」が87.7%、「どちらともいえない」が9.2%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は16件で、「お迎えの時に、結構な時間をかけて近頃の様子を共有してくれ、その際こちらの困りごとを共有したり、対策やアドバイスももらえ、自分が知らない子どもの行動に対するアドバイスなどは、やはり子どもの専門家だと信頼している」「面談や日々の会話の中で子どもの様子を伝えてくれている」などのほか、コミュニケーション機会の確保や職員の対応、家庭のプライバシーの保護などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	63	1	1	0
<p>「はい」が96.9%、「どちらともいえない」が1.5%、「いいえ」が1.5%となっており、「はい」の値は前回(82.3%)からさらに良化している。 自由意見は8件で、「念入りに清掃されていると感じる」「清掃のスタッフもいてきれいにしてくれている」「いつも廊下や階段・トイレ等、しっかりと掃除が行き届いている」「新しい園でもあり、非常に清潔だ」「いつもきれいに保たれていて驚く」などのほか、清掃・整理整頓について、さらなる配慮を望む声があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	60	4	1	0
<p>「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が6.2%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は8件で、「皆とても優しく丁寧な対応をしてくれているので、とても信頼できる先生だ」「親しみやすい雰囲気話せる」「いつも優しく子に接してくれている」などのほか、登園時の接遇や返却物の衛生管理について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	60	3	2	0
「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が4.6%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は7件で、「起こったことの説明、対応まで説明があり、真摯に対応してくれた」「看護師がいてくれる日は特に安心している」「ケガをした際に、保育士からの謝罪が必ずある」などのほか、ケガ等の際の保護者への連絡、感染症・虫刺され対策、きょうだい児のお迎えの際の家庭の負担への配慮について、さらなる検討を望む声が見られる。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	46	9	2	8
「はい」が80.7%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が3.5%となっている。 自由意見は5件で、「それぞれの家庭に配慮して処理してくれる」「すべて伝えてほしいと思っている」「子ども同士のいさかいについて特に説明がない」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握や対応について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	1	1	0
「はい」が96.9%、「どちらともいえない」が1.5%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は5件で、「基本的に寄り添ってくれていると思うので、子どもたちの思いを満たしつつ、だめなことはだめ、と伝えてくれていると感じる」「『やだ』も尊重してくれるので、とてもありがたい」「こちらも気づかない子どもの様子をよく見ており、感心している」などのほか、子どもの気持ちを大切にされた対応について、さらなる配慮を望む声があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	55	5	1	4
「はい」が90.2%、「どちらともいえない」が8.2%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は3件で、「プライバシーに関わることを特に聞かれることはない」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声が見られる。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	58	3	4	0
「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が4.6%、「いいえ」が6.2%となっている。 自由意見は6件で、「日々の活動の内容がアプリで閲覧できるようになり、連絡事項や日々の生活がわかるようになった」「お迎え時の共有や個人面談で丁寧に説明してもらっている」のほか、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる検討を望む声が見られる。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	51	4	1	9
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が7.1%、「いいえ」が1.8%となっており、「はい」の値は前回(80.8%)からさらに良化している。 自由意見は4件で、「迅速に対応してくれた」「疑問に思ったことを伝えた際、すぐに対応して、丁寧に話をする時間をもらい感謝している」などのほか、排せつの自立に関する保護者とのコミュニケーションについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	31	19	7	8
「はい」が54.4%、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が12.3%となっている。 自由意見は2件で、「依頼したことがない」のほか、外部の相談窓口の周知について、さらなる工夫を望む声が見られた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	子どもたちの育ちに寄せる園の思いを保護者に表明し、継続的な周知に努めている 「バオバブ保育園の保育が指すもの(保育の理念)」に、子どもたちが園での生活を通じ、「自分をたいせつに思える人」「柔らかに開かれた心を持ち、様々な人と共に生きていける人」へと育てゆくことを願い、保護者との協同のもとで「子育てをすすめる」ことを掲げている。人のありようとして、生涯を通じて目指されるこれらの「保育の大きな目標」の基礎を育むべく、理念に連なる11の「保育の目標と基本方針」とともに、保護者には見学・入園時の説明や懇談会・面談での対話、園便り等でのさまざまな発信を通じ、共通理解の形成に努めている。	
	経営層が運営の統括を担い、職員の主体性を尊重しつつ、園の方針を現場に発信している 職員には上述の園・法人の指すものについて、入職時のオリエンテーションの際に理解と実践を促すほか、日々の保育や子どもに関する話し合いも、折々の確認や再想起の機会となっている。園長・副園長など経営層が園の運営や保育などの統括を担い、毎年度当初の全職員参集の会議での事業計画の配付・説明をはじめ、園の方針を現場に発信するとともに、職員の主体性を尊重し、各人がやりたい保育に取り組み、その楽しさを感じられる環境を整えることや、運営の各場面で現場の要請に応じ、責任者としての判断や対応を行うことを責務と考えている。	
	必要な意思決定を行い、職員・保護者に周知させる仕組みや手順が整えられている 園長・副園長及び各クラス代表・栄養士・看護師などによる連絡会議を毎週設けるほか、正職員が集う職員会議を毎月行っている。園全体としての種々の意思決定は、主にこれらの場で行われ、議事録の確認や出席者からの伝達により、必要な情報が欠席者等に伝えられている。また法人内の「企画調整会議」等で話し合われた法人共通の方針・施策等も、前述の各会議等によって現場に周知されている。保護者には連絡通信アプリによる配信を基本に、必要に応じ書面も用いるなど、案件に応じた媒体・方法によって、各種の重要な連絡事項を伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
法人の長期的な方向性を念頭に、年度の事業計画に運営と実務の方針・取組を定めている 法人が2012年に策定した各5年・3期の15年計画に、経営や事業展開の方向性と課題を「大綱」として示し、2019年に一部改定を行っている。組織運営・施設整備・保育・地域福祉などの各分野について、策定当時の現状認識に基づく課題・目標を示し、入職時のオリエンテーションでも説明内容に加えるなど、法人全体で共有が図られている。これも念頭に、毎年度の園の事業計画を策定し、保育や食事・食育、保健・安全や保護者・地域支援、組織運営及び人材育成について、年度の取組や方針を定め、前述の年度当初の会議で職員に説明を行っている。		
実務的な各計画の作成・実行や、職員主体の各活動が、日々の運営の推進力となっている 各年齢の保育をはじめ、日常行う実務についても、具体的な取組内容・ねらい等を定めた実行計画や、年間の全体像を示す計画が作成され、取組や進捗状況の確認が業務ごとになされている。また主な行事や保護者・地域・研修・環境整備などの各委員会では、職員が主体となって企画立案や必要な取組を行い、旨とする現場主導の運営の基盤となっている。これらの各活動や上記の事業計画などに反映すべき職員の声は、前述の各会議や定期的な面談、業務内外の会話のほか、それぞれのクラス・委員会等での話し合いにより把握され、立案・検討に活かされている。		
保護者や地域の子育て家庭の声、事業環境の動向などについても、把握に取り組んでいる 保護者の意向は、毎日の交流や定期・随時の面談のほか、懇談会や「ワークショップ」などの交流行事、行事後に行うアンケートや、定期的な第三者評価受審時の利用者調査などを通じて把握している。また年度当初にも家庭の育児方針や園への要望などを募るアンケートを行っている。見学や子育て支援「プレーメン」で来園する未就園世帯の声から、子育てや教育・保育等に関する地域の状況・ニーズを把握するほか、市の私立園長会や行政・関係団体の各種発信、法人内の会議などから、関連する制度・政策の動向に関する情報などを収集している。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
<p>全職員が確かな倫理観のもとで職務にあたるよう、さまざまな啓発を行っている</p> <p>毎年度開始時に、園長が書面をもとに説明を行い、子どもの人格・人権の尊重や保護者との協同、地域の社会資源としての役割、職員集団としての協働と互いの尊重、子どもにとっての身近なモデルたるべき自覚など、園・職員としての使命・責任の確認を行っている。これらは各人の入職時にも、関連する10か条の規範を示す「職員綱領」などとも啓発され、今年度の法人合同の研修でも外部の識者を招き、人権に関する研鑽に取り組んでいる。またいわゆる不適切保育の排除に向け、昨年度末に保育士団体のチェックリストによる個別の自己点検を行っている。</p> <p>利用者保護の取組として、虐待等の防止や保護者の意向への対応の体制を整えている</p> <p>上記の年度開始時の啓発では、児童虐待の定義や虐待における保育所の役割、守秘義務や子どもへの適切な関わりの徹底などを定めた「虐待対応マニュアル」の確認がなされているほか、虐待等が懸念される子ども・家庭への支援に向け、通報・連携先機関を定めている。また意見箱「ばおばぶぼすと」や毎日の会話・連絡帳、個別の面談など、保護者が園に要望等を伝える仕組みを設けるほか、苦情解決制度を整備し、入園時などに保護者に周知を図っている。寄せられた声には個別に相談に応じたり、可能な改善に活かすなど、対応にも努めている。</p> <p>地域に開かれ、子育てを支える社会資源として、さまざまな取組を行っている</p> <p>ホームページや多摩市を通じた園の情報の発信、広報紙「プレーメンの庭から」の各所での配布、保育実習生や学生ボランティア・職場体験生の受け入れなどを行うほか、市の私立園長会や虐待・家庭支援等に関するネットワーク会議を通じ、市内の保育・教育機関や行政・福祉関係者等との連携にも加わっている。専用室「のうさぎ」での一時保育、園庭開放や食事体験、子どもの発達・育児等に関する語らいの場の提供を行う親子ひろば「プレーメン」を通じ、地域の子育ての支援にも努め、コロナ禍後の社会を見すえた活動のあり方の再検討を課題と考えている。</p>		

4			カテゴリー4		
リスクマネジメント					
			サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(00000)		
評価	標準項目				
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当		
			サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(0000)		
評価	標準項目				
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		<input type="radio"/> 非該当		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		<input type="radio"/> 非該当		
カテゴリー4の講評					
<p>事故や感染症などの重要リスクへの対策として、日常のさまざまな取組を行っている</p> <p>園舎・園庭の安全点検を毎月行うほか、安全・保健衛生面に関する手引書類を分野ごとに整え、コロナ禍発生以降は各所の消毒・換気の徹底や職員・来園者の検温・マスク着用など、日常的な感染症のまん延防止対策にも注力している。また保育中のケガなどの事故と、それらの要因となるヒヤリハットについて、発生・把握のつど原因・対策の検討や毎日のミーティング等での共有を行い、必要に応じてクラス内・園内でより詳細な考察を行うなど、予防・再発防止を図っている。これらの事例を安全向上により活かすために、仕組みの精度を高める工夫も期待される。</p> <p>不審者・災害への備えや、毎月の会議での安全・保健面の現場への啓発もなされている</p> <p>侵入を想定した不審者対策訓練を毎年度行い、戸外での遭遇も想定や話し合いを行っている。毎月の避難訓練では災害時の対応や保護者との連携などを確認しており、時間帯をより多様に設定し、防災対応の強化につなげることも期待される。また「危機管理マニュアル」中の簡易的な記載にとどまっているBCP(事業継続計画)についても、感染症等に関する同種の計画と併せ、整備が望まれる。毎月の会議では、安全衛生の担当者が避難訓練や上記の安全点検の結果などの報告、直近の防災や安全・保健面の課題の発信などを行い、その後の検討につなげている。</p> <p>情報の適切な管理と漏洩防止に配慮し、ICT化による情報の利活用にも取り組んでいる</p> <p>法人策定の関連規程や個人情報保護方針に、個人情報の取り扱いに関する種々の規定を示し、職員の手引きとする「BBハンドブック」に、各種情報の管理・利用や機密保持等に関する実務的な注意事項を定めている。これらについて、職員には入職時など、実習生等には受け入れ時に啓発を行うとともに、PCのログイン制限や職位等に応じた情報アクセス権限の設定、重要書類の施錠管理など、情報漏洩の防止にも配慮している。連絡・事務等に関する統合ソフトウェアの導入にあたり、端末類の増設や情報送信時の承認・決裁ルールの設定などもなされている。</p>					

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
組織力の向上に取り組んでいる		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	
カテゴリー5の講評		
<p>法人と園の連携のもとで、安定的な保育と運営に望まれる人材構成の確保を図っている</p> <p>法人が傘下各園の正職員の募集・採用を行い、各種養成・採用機関との連携や法人サイト上での情報発信など、多様な媒体・方法による人材の確保に努めるほか、各園が状況に応じて准職員の雇用を行っている。また各人の働き方やキャリア形成等に関する意向を園長が把握したうえで、法人内の「企画調整会議」で検討される異動などの人事や、園内の配置の参考としており、配置は「持ち上がり(担任継続)」による保育の安定的のほか、各人の経験・適性や期待する役割の発揮、チームとしての経験等のバランス等を考慮し、職員の話合いのもとで決定している。</p> <p>職員の成長を支援する、育成・研鑽の目安や緩やかな目標管理の仕組みを設けている</p> <p>法人共通の「職員としての育ち合い」ファンリテーションプログラム」に、職員の育成や自己研鑽の指針を示すほか、管理者層から初任者層までの各階層に望まれる能力・資質と研鑽を一覧化し、別に国の処遇改善制度に対応する各職位区分について、求める役割・能力を定めている。また「キャリアアップ計画表」により、各職員が前年度の自己評価をもとに、当年度の重点目標や職場内外の研修受講、自己研鑽の計画などを立案し、園長との面談でこれらを共有する仕組みも運用されている。これらの見直しや再編により、機能を高めることを課題と考えている。</p> <p>各種研修や園内の話し合いの充実により、組織の学びと同僚性や保育の質を高めている</p> <p>都キャリアアップ研修や、自治体・各種団体等主催の職位・分野別の専門研修の受講も順次なされ、会議や報告書・資料によって成果の共有が促されており、報告書の書式の工夫など、効果的な学びの還元にも配慮している。また日常の会議での情報共有や課題検討に加え、中間・期末にはクラス・部署ごとに、子どもの育ちや担当業務に関する振り返りを各職員がつづり、その共有を踏まえた話し合いを行うなど、組織の協同性と同僚性を高めつつ保育の充実を図る仕組みが設けられている。就業状況の管理や産業医との連携など、労働環境の最適化にも努めている。</p>		

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1	
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>昨年度は新装なった園舎での新たな生活が、子ども・職員ともに快適かつ安全なものとなるよう、さまざまな創意工夫や試行錯誤に取り組んだ。環境の変化に伴い、前年度からのコロナ禍の影響とも相まって、子どもたちには戸惑いやストレスも生じることが懸念されたほか、保護者にも同様に不安や混乱が生じるおそれがあった。これを踏まえ、日々の状況を踏まえつつ随時組織内で話し合い、そのつど対策や改善を講じた。</p> <p>年度開始当初は乳児クラスがそれぞれの保育室での生活を開始し、幼児は5歳児が一時保育室を暫定利用するなど、生活の場の確保を工夫したが、ホールが未完成の状況の中で、その一時保育室が幼児の食事場所も兼ねるなど、子どもの生活や心の安定に配慮しながらの保育提供となった。また園庭も6月から一部利用が可能となるなど、段階的に開放が進められたことから、園外に散歩に出る機会もおおのずと増え、安全面には従来以上の配慮を行った。調理室も12月までは工事の関係で、手狭な環境での業務を余儀なくされることとなったが、さまざまな不便を担当間の協力によって補い、献立の質が下がることのないようにした。また各種の日常的な防疫対策により、感染症のまん延防止にも努めた。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>保護者との連携については、感染対策のため、日常の対面でのコミュニケーションも限定的になり、クラス懇談会や親睦会等の機会も見合わせが相次いだ。その中で、連絡帳の活用のほか、毎月の便りや献立表、幼児の「壁新聞」などを、新たに導入した連絡通信アプリによる配信とし、登降園の管理も同アプリによって電子化するなど、日々の利用や連絡の円滑化を図ったほか、懇談会をオンラインで行うなど、新たな試みも行った。</p> <p>新園舎の生活には懸念したほどの混乱は生じず、保護者からも好評を得た。また各クラスの保育についても、特に幼児では個別の配慮が必要な子どもも在籍する中で、暫定的な環境下での保育についてはさまざまな配慮に努め、1月からはホールや5歳児室も使用可能となり、生活にも落ち着きが見られるようになった。園庭の活用についてはプロジェクトチームを設けて検討を重ね、活動の充実を図り、12月から全面使用が可能となった。感染症も年度末に一部クラスで閉鎖が生じたが、大規模の感染は発生せず、一連の対策の効果によるものとらえている。</p> <p>今年度も一連の取組を継続し、社会の情勢の変化も踏まえ、種々の制限も徐々に緩和しつつ、さまざまな面で充実に取り組んでいる。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度はソフトウェアの導入により、保護者との連絡通信や登降園管理・各種料金収受事務などをICT化し、情報の管理・発信や事務面の効率化と確実化を図るにも取り組んだ。かねて事務業務の合理化と省力化に関する検討を行っており、給食費や延長保育料などを現金で授受することには、紛失や収受の過不足等のリスクもあったことから、その面でも電子化が望まれていた。また保護者への情報の発信においても、ペーパーレス化や印刷等の作業の軽減、保護者の側の閲覧の利便など、ICT化のメリットが期待されていた。前年度より保護者にアナウンスを行い、年度開始とともに運用を開始した。登降園管理と付帯する各種事務を、ソフトウェアを用いた端末間のやり取りによって行うほか、毎月の便り・献立表や種々のお知らせ書面、幼児クラスの「壁新聞」についても、配付・掲示を中心とした発信から、同様にソフトウェアと端末による配信に移行した。また保護者への写真の販売についても、委託業者を変更し、上記のソフトウェア内で写真の閲覧・購入ができるようにしている。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

各種の管理・事務は、電子化後も大きな障害や混乱の発生もなく、概ね滞りなく行われており、所期の目的とした業務の省力化や、料金収受の際の事故防止などの効果も得られている。また情報発信を電子化したことは、特に新型コロナウイルス対策等に関する発信など、伝達と保護者側の確認が即時に行われることが望ましい情報について、効果的な共有につなげられている。その他の日常の情報の発信・共有についても、紙媒体を主体としていた従前よりも円滑になり、保護者と保育者の意思疎通を行いやすくなったと考えている。今後はソフトウェア導入による種々の利便性向上等のメリットを活かしつつ、運用を通じて得られた諸課題の解決にも取り組み、機能をより保護者との連携や運営・保育の充実に結びつけたいと考えている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/>非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>法人・園のホームページに園の概要を掲載し、写真やブログで園の様子を伝えている</p> <p>法人のホームページでは、保育理念や「一人一人が園生活を無理なく楽しく送れるように」「戸外の陽の光を感じ、自然と友だちになれるように」「子どもたち一人一人が生活の主人公になれるように」などの、法人が心がけている保育の考え方を紹介している。系列各園を紹介するページも設け、施設概要や年間行事予定、第三者評価の結果、アクセスマップを掲載するほか、フォトギャラリーとして園の様子を紹介し、ブログでも随時日々の保育を発信するなど、入園希望者が在宅においても園の様子を知ることができるようにしている。</p> <p>市を通じた情報提供や地域子育て支援事業によって、園の取組を地域に発信している</p> <p>多摩市のホームページには保育所一覧が掲載されており、所在地と連絡先が記載されているほか、上記の園のホームページへのリンクが設定されている。また地域の子育て支援事業として、育児サークルに集まりの場所を提供するほか、毎週水曜日・土曜日の10時~12時の時間帯で園庭開放を実施しており、子どもが遊んでいる姿や、子どもと保育者の関わりの様子を知ってもらえる機会になっている。地域向けの試食会も実施しており、1日3組限定で幼児食の提供を行い、その中で調理担当との質疑応答の時間を作っている。</p> <p>見学者を受け入れ、保育の特徴や環境構成の工夫などを説明している</p> <p>入園希望者に対する見学は、電話で予約を受け付け、感染対策を講じたうえで、1回2家庭を目安に受け入れている。時間帯は子どもたちの姿を見られるよう基本的には午前中を勧め、保護者の都合がつかない場合には夕刻などの時間帯にも対応し、突然の来訪にも、体制が整い対応が可能であれば案内している。案内は副園長が行い、園のパンフレットに沿って、保育の内容や環境構成の工夫のほか、食事・行事・卒園後のつながりなどを説明するとともに、子どもの年齢に該当するフロアを案内しており、適宜質問や疑問に答えている。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園説明会では「入園のしおり」を用いて園の重要事項を説明し、同意を確認している</p> <p>入園が内定した家庭には、入園説明会用書類一式を郵送し、一読と必要事項への記入をお願いしている。入園説明会では、「入園のしおり(重要事項説明書)」を用いて、利用開始にあたっての重要事項を説明している。その後年齢別に分かれ、保育者が用意するものなどの保育開始に向けた説明を行い、質疑応答の時間を設けている。日頃の生活で用いる日用品については、具体的なイメージがつくよう実物を用意している。入園説明会後には個人面談を行い、終了後には重要事項説明書に関する説明や、個人情報の取り扱いに関する同意を署名にて確認している。</p> <p>面談や各種書類において、子どもと保護者の情報を把握・記録し、職員間で共有している</p> <p>入園前の個人面談では、保護者や家庭の情報のほか、子どもの健康状況や生育歴・予防接種・既往症などの保健面の情報、成長・発達や生活リズムなどに関する保護者記入の各種書類の内容を確認し、さらに詳細な情報を聴き取り、記録している。食物アレルギーや保健面に不安がある場合には、適切な援助が行えるよう、栄養士・看護師による面談も行っている。面談や各種書類により把握した新入園児とその家庭の情報は、職員会議で共有しており、面談担当者と担任との間でも確認がなされている。</p> <p>利用開始やサービス終了時の負担と不安を軽減し、卒園後に再会の機会を設けている</p> <p>入園直後には、子どもの負担と不安を軽減できるよう「慣らし保育」を実施している。上記の面談の際に、子どもの状況などに応じて個別に期間を設定し、徐々に保育時間を延ばし、体験を増やししながら園での生活リズムに対応できるようにしている。保護者の不安にも配慮し、コミュニケーションを取り、丁寧な対話を心がけ、開始日・受け入れ時間をずらすなどの対応を行うほか、降園の際にはできるようになったことや笑顔が出た場面などのエピソードを伝えている。サービスの終了時には、保護者の相談に応じるほか、卒園後にも再会の機会を設けている。</p>			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの成長・発達や家庭の状況を把握し、記録・更新する仕組みを整えている</p> <p>子どもの心身の状況や園での様子は連絡帳、日誌、児童票などに記入している。体格的な成長は毎月の身体測定で確認・記録するほか、健康診断・歯科検診や保護者から報告を受ける予防接種の接種状況など、保健面に関する状況も記録する仕組みを整えている。子どもの心身の発達については「大切にしたいこと」として、一人ひとりのねらいや目標とともに、0～2歳児では写真と文章で、3歳以上児については文章で現状の姿を記している。保護者の就労や家族構成など家庭に関する情報は、入園時に把握している内容に変更がある場合に、適時更新している。</p> <p>年間指導計画・月案・週日の計画を策定し、日々の保育の実践に反映させている</p> <p>全体的な計画(保育課程)は、養護と教育の領域を「人と人のかかわり」「生活の営み」「遊びと活動」の項目に分け、各学年の育ちや子どもの今の姿を大切にしたい保育実践につながるよう作成しており、これらをもとに長期・短期の各指導計画や年間のクラステーマを定めている。年度中間・末には保育全般に対する振り返りを行い、子どものエピソードを織り交ぜながら、個々の様子、保育者の関わり方や環境設定、子どもの行動について考察し、作成者以外の保育者と意見交換をするなど、さまざまな観点から今の子どもの姿を共有する機会としている。</p> <p>職員間や保護者との情報共有と、配慮を必要とする子どもへの援助に努めている</p> <p>保護者には保護者会で各クラスの目標を説明するほか、クラス便りで毎月のねらいを知らせている。職員会議では各クラスの子どもの状況や健康状態、配慮事項などを全体で共有している。日々のミーティングや毎月のクラス会議では、子どもの個別状況を含む各クラスの全体周知を要する事項等を伝え合い、保育や環境などの検討・共有も行っている。特別な配慮を必要とする子どもについては「生活支援シート」で現状を把握し、保護者との定期的な面談で双方の情報共有を図っており、これらの情報をもとに個別指導計画を作成し、発達の援助に努めている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>情報の取り扱いや日々の子どもへの援助において、プライバシーや羞恥心に配慮している</p> <p>法人の個人情報保護方針に、個人情報の取得や利用、本人の同意を得てからの第三者提供について定め、ホームページにも同方針を掲載している。入園時に保護者に内容を説明し、同意書の署名によって利用の承諾を得ている。子どもの人権や羞恥心の芽生えに配慮し、おむつ交換は外から見えないようトイレ内で行うほか、着替えも外部から見えないような対応に努めている。また着替え時には裸にならないように乳児の頃からその手順を知らせたり、夏季のプール活動では、園外からの視線に配慮し、目隠しを施して子どものプライバシーを守っている。</p> <p>一人ひとりの個性の尊重に向け、子どもたちの状況の把握に努めている</p> <p>食物アレルギーへの対応や離乳食の提供のほか、発達特性や個性への対応など、特段の援助や配慮が必要となる場合には、職員間・保護者・専門家と連携し、子ども一人ひとりを尊重に努めている。発達状況や特性、体質などの子ども一人ひとりの情報は、入園時の面談や各種書類により把握するほか、入園後も子どもの発達状況を定期的に確認し、個々の発達段階に応じた援助・配慮につなげている。子どもの特性や成長を職員全員が把握できるよう、中間・年度末には振り返りを行い、子どもたちの状況を職員全員で話し合う時間を設けている。</p> <p>虐待防止に向けたマニュアルを用意し、子どもと職員への意識啓発の機会を設けている</p> <p>虐待防止に関するマニュアルを整備するほか、「入園のしおり」にも虐待防止のための措置に関する事項として、園が講じている対策や虐待が疑われる場合の通報先を掲載している。子ども家庭支援センターの職員と連携を図り、子どもたちを対象に、家庭での虐待防止の内容も含む、子どもが危険な状況を感じ取り、大人に伝えることの大切さを教える取組を実施しており、わかりやすくするため劇仕立てにして伝えている。これは保育者が虐待の発見に近い立場に近しいことを、職員が再認識するきっかけともなっている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>「BBハンドブック」などの手引書類に、業務の標準的な手順・考え方等を明示している</p> <p>感染症・危機管理・事故防止などに関するマニュアルが整えられており、緊急時の体制・地震・火災・自然災害・事故発生・不審者対策のほか、保健衛生面ではSIDS・誤飲・食物アレルギー・食中毒などに関する基本的な考え方や対応、予防への手順が示されており、必要に応じて通報や職員の動きなどをフローチャートを用いて説明している。また人と人の関わり、生活の営み、遊びと活動、保護者との関わり、食事作りと食育、地域への子育て支援などについて、考え方や留意点が記された「BBハンドブック」は、全職員に配付されている。</p> <p>新人研修や「入園のしおり」の確認を通じて、業務や保育の基本の定着が図られている</p> <p>新人研修プログラムでは、法人の歩みや上記のBBハンドブック、全体的な計画の内容に加え、職員同士や保護者との関わり、マナーのほか、就業規則や中長期計画について説明している。全体的な計画は年度初めに読み合わせを行い、園が大切にしていることを確認する機会とするほか、保護者との約束にもなっている。「入園のしおり」の内容を把握できるよう、毎年変更点を周知し、各自での再確認を促している。またプール前の確認事項やコロナ感染症に関する登園の基準など、そのつど確認を要するものを掲示し、確実な対応につなげている。</p> <p>業務や保育の水準の維持・向上に向け、さまざまな取組を行っている</p> <p>業務や保育の水準の維持・向上に向け、さまざまな取組を行っている。長期・短期の保育計画や子どもの姿の振り返りを行い、次の計画や実践の参考とするほか、園内の安全の確保や施設内の危険箇所の特定・周知に取り組んでおり、月別の重点項目を定め、定期的に点検を行い、新たな気づきを改善につなげている。保護者の意向や要望は、日々の送迎時の対話や行事の際に実施するアンケートなどから把握し、必要に応じて改善を行うようにしている。また「園庭プロジェクト」として、園庭の整備を保護者も含めた園全体で行っている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもが主体的に活動できるよう環境の工夫を行い、対話の機会を設けている</p> <p>子どもの主体的な活動を促すために、自分の場所やものがわかるように個人別のマークを活用するほか、一日の流れを大きく変えず次の活動への見通しがつきやすくなるように工夫している。子どもが好きな遊びに向き合えるよう、各クラスの環境構成に配慮し、一人で楽しめる遊びからグループになり、遊ぶこともでき、その日の子どもの状況や興味・関心に合わせた活動を展開できるようにしている。幼児は朝や帰りの会で子どもと話し合う機会を設け、子どもの意見を聴き、それぞれの思いを尊重しながら、子どもの主体的な活動を促せるようにしている。</p> <p>異年齢児との関わりの中で、子ども同士が育ち合える日々が営まれている</p> <p>3歳以上児では、異年齢で交流する機会が設けられ、発達の異なる子どもたちの育ち合いの日々が営まれている。年上児の活動を見て憧れたり、遊びをまねたりし、園庭遊びや散歩のほか、互いの部屋を行き来するなどして乳児・幼児のふれ合いが生まれ、互いに相手を思いやり、優しい気持ちが育まれている。特別な配慮が必要な子どもも、同じクラスで生活することで互いに影響し合い、それぞれの思いや気持ちを通わせながら生活できるようにしている。また巡回指導員からの指導や助言を受け、子どもそれぞれに必要で適切な援助となるよう取り組んでいる。</p> <p>子ども同士のトラブルでは、個々の状況に応じた対応に努めている</p> <p>子ども同士のトラブルでは、年齢や発達に合わせた対応を行っており、言葉にならない思いを汲み取り、大人が代弁しながら自他の気持ちを伝え合うほか、危険がないよう見守りつつ、子ども同士で思いを伝え合ったり、時には大人が間に入って問いかけたりして、自分たちで気持ちを調整し、解決していけるよう支援している。小学校との連携として、就学予定の子ども情報は就学支援シートを作成して共有し、コロナ禍以前は学校見学や行事に参加し、期待感を高める取組も行われている。就学後に必要な所作についても、遊びを通して学べるようにしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>送迎時に保護者と子どもの様子を伝え合うとともに、アプリの活用もなされている</p> <p>登園時は担当が保護者から子どもの家庭での様子を聴き取るとともに、子どもの顔色や声の調子などから健康状態を確認している。体調に変化がある場合は「伝達ノート」に記載するとともに、担任間で共有を図り、子どもの健康状態を慎重に確認し、適切な支援につなげている。また前日までに体調不良やケガ等が生じていた場合は、口頭でその後の様子を確認するなどの配慮をしている。2歳児までは保護者と「子育てノート(連絡帳)」でのやり取りを行い、園での子どもの様子を伝えており、アプリでの配信や口頭でも伝えるようにしている。</p> <p>子どもの意欲や発達に応じ、自立に向けた援助が行われている</p> <p>トイレトレーニングは歩行が確立し、トイレへの興味が生まれ排尿間隔が一定になった頃を目安として、遊びの妨げをせずに個々のペースに合わせて誘うようにしている。ズボンの脱ぎ履きなど、着脱しやすく椅子を用意したり、段階的な見守りを行いながら意欲を高め、自分でできることを成功体験として積み重ねている。食事は手づかみ食べから始め、指先の発達や子どもの意欲に合わせて食具を用意している。握り方の変化が見られる3歳前後に箸の指導を行い、日々の食事では食具を選べるようにしており、一人ひとりの意欲を尊重している。</p> <p>発達や生活リズムに応じて休息を取り、健康的に過ごせるようにしている</p> <p>午前の主活動から食事、午睡へと続く生活のリズムを大切にしており、午睡は一定時間身体を休ませる時間としている。乳児は家庭での生活リズムやその日の体調等を把握し、個々の睡眠欲求に応えるようにしている。穏やかに眠れるよう、子どものそばに保育者がついて安心できる雰囲気になっているほか、眠たくない子どもがしばらくの時間遊んだり、布団の場所で絵本を読んだりもできるようにしている。また子どもの顔色が見える程度に室内の明るさを調整するとともに、年齢によって呼吸・体位等の確認などを行い、SIDS対策の徹底にも努めている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが遊びを選択できる環境や日々の活動のつながりから、興味・関心を広めている</p> <p>年間で掲げたテーマをもとに、活動内容や子ども一人ひとりの思いを考慮して保育を組み立てている。子どもたちが季節や自然を感じたり、発想を豊かに展開したりできるような保育を提供し、子どもが主体的で積極的に取り組めるようにしている。年長児の「ガサガサ体験」では近隣の川へ出かけ、水の中に棲む生き物を発見して観察し、後日、図鑑等で生態を調べた内容を写真や絵を盛り込んで掲示するなどの取組が自発的に行われている。川への興味が合宿体験の内容とつなげられることで、さらなる興味や探究心が深まり、期待感が高められている。</p> <p>言葉の感覚を養い、人との関わりが生じる中でさまざまな言葉の獲得につなげている</p> <p>朝や午後の集まりの時間では、活動内容について話をするとともに、内容に応じた子どもの意見を聴き取ったり、保育者とともに話し合ったり、時にはグループで話し合う時間を設けたりするなど、言葉を通じて自分の思いを伝え合う体験ができるようにしている。子どもの自発的な気づきを尊重しており、保育者は子どもと同じ目線で接することを旨としている。また絵本や素話、季節の歌や童歌などを通じて言葉遊びも楽しみ、部屋には季節ごとの食べ物や、動物・乗り物など身近なものを写真で掲示し、それを見ながら体験を言葉で表現できるようにしている。</p> <p>さまざまな戸外活動が子どもの興味や関心を広げ、季節や自然への感性を培っている</p> <p>日常の保育の中で自然に触れる体験をさまざまに設け、子どもたちの五感を刺激し、感性を育て、四季折々の変化を感じて自然を大切にすることを育んでいる。園庭には築山や砂場・固定遊具、2階のテラスは斜面を活用した遊び場もあり、仲間とともに存分に遊べるようにしている。秋のサンマ焼きや、園庭で火おこしをして行う「野焼きパン」など、戸外で季節を感じながらおいしく食べる食体験も行われている。散歩では自然散策や昆虫探し、木の実や落ち葉など季節の草花等を使った見立て遊びなどに興じるほか、自然物を持ち帰り、制作活動に活用している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの興味や日頃の活動から行事につなげ、楽しみながら取り組んでいる</p> <p>子どもの日頃の姿から行事につなげていけるよう、個々や集団での子どもの姿をもとに考案し、子どもや保育者との対話を重ね、日常生活の中で子どもが楽しみながら主体的に取り組めるようにしている。幼児の神輿作りでは、子どもたちが意見を出しながら話し合い、創意工夫しながら一緒に作っており、一つの目標に向かって取り組むことで、協調性や想像力を育み、達成感や充実感を子どもたちにもたらしている。年長児は「かば太鼓」として仲間や保護者に見守られる中、ねじり鉢巻にはつびを身にまとい、一人ずつ太鼓を叩き、力強い姿を披露している。</p> <p>親子で楽しさを共有したり、季節や伝統文化に触れながら楽しめる行事を実施している</p> <p>秋に開催された「プレイデー」は、園舎建て替え後に初めて園庭で行われた親子行事で、コロナ禍による感染対策を踏まえつつ、親子で楽しめる行事として取り組まれている。子どもたちが競い合うことを目的とせず、日常的に楽しんでいる集団ゲームやわらべ歌遊びを、親子でふれ合いながら楽しさを共有できる場として開催している。日本の文化を知る機会としてお正月や七夕・餅つきなど、年間を通して季節を感じ、伝統を知ることができる行事を実施している。「むかし遊びの会」ではお手玉・羽子板・竹馬・コマなどの伝統的な昔遊びが傳承されている。</p> <p>子どもたちと一緒に作り上げる主体的な取組から、行事当日への期待感を高めている</p> <p>4歳児は公共交通機関を利用して「お楽しみ会(園外保育)」を実施し、5歳児は郊外のキャンプ場で川遊びやマスつかみなど、自然の中で存分に楽しんだ後に、園に戻って花火やキャンプファイヤーなど、日頃体験できない遊びを仲間とともに楽しめる合宿が行われている。いずれも事前に子どもたちと対話を重ね、当日に向けてしおりを作成したり、行程を確認し合いながら必要なものを子ども同士で考えるなど、自発的に取り組んでいる。当日までの過程はクラス便りや「壁新聞」の配信などにより、行事を通して成長が感じられる姿を保護者と共有している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが長時間の生活を楽しめるよう、くつろいで過ごせる環境づくりを心がけている</p> <p>園で長時間を過ごす子どもたちの一日の活動に変化をつけ、くつろいで過ごせる環境づくりに配慮している。0歳児の部屋にはサークルで囲った畳の部屋、1歳児室にはソファがあり、横になったり座って一人遊びができるほか、一人ひとりのペースに合わせてゆったりと関わりながら、落ち着いた気持ちになるようにしている。園庭やテラスでは異年齢の子どもたちとの交流があり、年上の子どもが年下の子どもの部屋に遊びに来たり、お世話をするなどの優しさに触れ、年下の子どもが安心して甘えられる姿などが日常的に見られている。</p> <p>一日を健康的に楽しく過ごせるような、活動内容のバランスの工夫に努めている</p> <p>週の中での活動バランスにも配慮し、天候により戸外に行けない時や、夕方動きが足りない子どもがいる時には、廊下やホールを使って身体を動かすことができるようにしている。子どもの様子や生活リズムに合わせて寄り添い、体力や情緒に応じて活動にメリハリをつけながら過ごしている。合同保育では異年齢の子どもたちがともに過ごす中で、保育者が子どもたちの希望を聴きながら、いつもと違った玩具を提供したり、年下の子どもへの配慮として細かい玩具をしまうようにし、それぞれが安全で無理なく過ごせる空間となるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもにとって食事が楽しい時間になるような配慮に努めている 3歳以上児はホールにて食事・おやつを食べている。5歳児は自分たちで米を研ぎ、炊飯を行っている。配膳は、全学年に対し目の前で鍋等から直接提供しており、配膳される過程を目の前で心待ちにしている子どもの姿が訪問時に見られていた。食材は安全に配慮したものを使用し、既製品を使わずに手作りで調理をしている。献立は2週間サイクルメニューで、旬の野菜を活用し、食を通して季節を感じられるようにしている。苦手食材がある子どもには無理強いせず、自ら食べてみようとする意欲が芽生えるまでは、声をかけ過ぎずに見守ることとしている。</p> <p>食物アレルギーや離乳食への対応の仕組みを整え、安全な食事の提供に努めている 離乳食は、子どもの状況に合わせて無理なく進めていけるように、調理室内での担当者とともに保護者と連携を図っている。段階に応じた食材は家庭で試してほしい目安表を個別に配付して、印をつけるような仕組みとなっている。アレルギー食の提供は、医師の指示書に基づき、除去食を提供している。保護者には提供する前月に献立表を渡し、確認を受けることとしている。提供時は専用のトレー・食器に盛りつけ、誤配防止に努めている。除去等がある日には、職員がそばにつくなどの工夫を行うとともに、配膳前には職員間で口頭確認をして対応している。</p> <p>子どもの食への関心や意欲を高められるよう、さまざまな食育活動を行っている 米の苗付けや収穫、旬の野菜を栽培するなどの体験は、日常的に口にしている食材のなりたちを知る機会になっている。日々の食材を活用して皮むきやカボチャの種取りを日常的に行うとともに、魚の解体を通して命をいただくことの意味を伝えるなど、食を身近に感じ、多様な体験に取り組むことができる環境を整えている。年齢に応じた調理保育や、視覚からも興味を高める行事メニューの提供から、子どもが楽しみながら食の経験を重ねられるようにするほか、園としての食への取組や思いは園便りや給食便りに記載し、保護者にも食に関する啓発を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子ども・職員への保健指導を行い、嘱託医・保護者との連携に努めている</p> <p>子どもたちへの保健・安全教育のほか、衛生管理・職員への保健指導・保護者への情報発信などに関する保健計画を策定している。月別の重点項目を定め、衛生や安全のチェックを行い、必要な改善につなげている。子どもの健康状態は、視診や連絡帳の内容、保護者からの聴き取りなどから把握し、検温や適時の水分補給、睡眠時の呼吸等の確認、温度や湿度の管理など、健康維持へのさまざまな対策を講じている。嘱託医と連携を図り、健診の実施のほか、医療情報の提供や相談に応じてもらい、保健に関する情報を保護者に提供し、家庭との連携にも努めている。</p> <p>子どもの衛生や健康に関する感覚を育み、所作を伝える保健指導を行っている</p> <p>子どもの衛生に対する感覚を育めるよう、排せつや手洗いなどの援助の際には、清潔であることの心地よさを言葉を使って伝えるよう心がけている。子どもへの保健指導は、看護師と保育士が連携を図って行っており、手洗い・うがい、口濯ぎ・歯磨き・洗髪などの所作について教えるだけでなく、心と身体や言葉と気持ちなどの話などのほか、熱中症や冬の感染症、季節の変わり目の衣服の調節など、季節に応じた話題にも触れている。保健指導を実施する際には、子どもの理解力や集中力に応じた伝え方や時間への配慮にも努めている。</p> <p>子どもたちが主体的に自分の身を守ることができるよう、安全教育を行っている</p> <p>子どもが主体的に自分の身を守ることや、安全に関する意識を育めるよう取り組んでいる。異年齢児の関わりなど、日々の保育の中で、年上児には年下児と過ごす際に気をつけることを伝えるほか、毎月の避難訓練の際には、自分の身を守るための所作や姿勢、行動などを教えている。プール開きの前には、安全な水遊びやプールでの約束ごとを伝えるとともに、保育者が問いかけながら、何が大切なことかを子どもたちが考えられるようにしている。またヒヤリハット事例や事故が起きた際にも、状況を子どもと共有し、話し合い、考える時間を設けている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の意向や状況の把握に努め、園としてできる限りの対応に取り組んでいる</p> <p>個々の保護者の意向や状況は、日々の送迎時の対話や連絡帳のやり取りのほか、個人面談などを通じて把握しており、把握した内容は、秘匿性に配慮したうえで、毎日のミーティング・職員会議などの機会に職員間で共有している。また玄関に「ばおばぶぼすと」を設置したり、行事後にはアンケートを行ったりするほか、定期的に第三者評価を受審し利用者調査を行うなど、保護者の意向の把握に取り組んでいる。就労を基本としている土曜保育やスポット延長保育については、保護者の個別事情にも応じて利用可能とするなどの柔軟な対応を心がけている。</p> <p>保護者同士の交流を支える機会を、園ならではの工夫のもとでさまざまに設けている</p> <p>「ワークショップ」と呼ばれる、保護者に参加を呼びかけ、園庭や木製のテーブル、椅子などのメンテナンスをするイベントは、保育者と保護者が協力しながら子どもために環境を整備し、日頃は関わりがなかった保護者同士の交流の機会となっている。保護者が参加できる「プレイデー（運動会）」、川遊び「ガサガサ体験」、餅つきなど、園での行事を保護者に開放している。そのほか乳児クラスでは、保護者同士の会話の機会として、親睦会「おしゃべり会」を実施するなど、保護者同士が交流する機会がさまざまに設けられている。</p> <p>保護者との信頼関係を深められるよう努め、育児の参考となる情報を発信している</p> <p>保護者との信頼関係を深められるよう、日々の対話や個人面談を通じて、園と家庭での子どもの姿を伝え合っている。懇談会では、保育の目標や育ちの見通しなどを伝えるほか、保育参加を実施し、日頃の子どもの様子や保育者の子どもとの関わりを見てもらっている。上記のワークショップは、保護者同士の交流の機会となっているだけでなく、作業を通じて、保育者と保護者が互いのいつもの姿を知る機会ともなっている。保育参加や園便りのほか、保健と食事に関する便りを発行するなど、保護者への育児の参考となる情報の発信にも努めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用した取組や地域の方々との交流の機会を設けている</p> <p>近隣の図書館を利用するほか、近隣の商店には、遠足の前の日に遠足に持っていくおやつなどを買いに出かけている。地域の消防団との交流が持たれており、消防自動車に乗せてもらったり、消防服を着せてもらったりしている。地域の河川での「ガサガサ体験」は専門家を招いて行っており、川の生き物を獲る体験をしている。また児童館まで避難する避難訓練を行うほか、地元中学生の職場体験を受け入れ、高校生や卒園児のボランティアも来園するなど、さまざまな人々と子どもたちとのふれ合いが持たれている。</p> <p>子どもたちが園の職員以外の方との関わりを通じて、いつもとは違う体験をしている</p> <p>山梨県小菅村のキャンプ場に出かけ、専門家に教えてもらいながら、園周辺の河川でも体験している「ガサガサ」や川遊び、マスつかみを楽しみ、園に戻り、宿泊体験をしている。複数の元職員が来園し、素話や絵画の指導をもらうなど、多様な経験の機会になっている。また園では、山形県の農家から野菜を届けてもらっており、コロナ禍以前では相互の行き来も行い、現在ではオンラインツールを使って交流を図っており、今年度は農家から送られた種籾を用いた稲作に取り組んでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	保護者と園が子どもの育ちを支える両輪として、協同関係を築けるよう努めている	
内容①	<p>保育者と保護者が協力して園内環境の改善に取り組む「ワークショップ」や保育参加・懇談会等を通じ、保護者との協同関係を築けるよう努めている。子どもたちが「自分をたいせつに思える人」「柔らかに開かれた心もち、様々な人と共に生きていける人」に育ってくれることを願い、「保護者とともに子育てをすすめる」ことを保育の理念として掲げ、園が子どもの生活と育ちの場であり、保護者との協同の場でありたいと願う、園の思いが「入園のしおり」に記されている。またしおりには、保護者の苦勞や悩みへの寄り添いの言葉も記載されている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	子ども一人ひとりを尊重した保育の実践に努めている	
内容②	<p>子どもたち一人ひとりの発達や性格のほか、家庭の状況を職員で共有し、個々に応じた援助につなげている。子どもの発達状況は定期的に評価し、保護者との日々の対話や個人面談を通じ、家庭での子どもの様子を聴き取っている。毎年度中間・期末に行う振り返りでは、すべての職員が保育実践の中で見られた子どものエピソードを記述し、職員間で子どもの育ちを分かち合っている。また子ども一人ひとりを尊重した保育実践に向けた基本を記した「B/Bハンドブック」を全職員に配付し、全体的な計画と併せて、年度当初にその再確認の機会を設けている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル③	園を巣立った子どもたちの成長にも心を寄せ、長期にわたる関係性が継続されている	
内容③	<p>子どもたちがこれからの未知で困難が多い社会の中で、幸せな人生を送ってゆくため、保護者の子育てを支え、子どもの成長とともに見守り、喜び合えるよう、卒園等の利用終了後も、子ども・保護者と関わる機会を設けている。小学校6年生まで保護者主体で実施されている「同窓会」に園を貸し出すほか、全卒園児に年1回発行する季刊誌を送付している。また園の主催で、「中学入学を祝う会」や「二十歳を祝う会」を実施しており、子どもや保護者が旧交を温め、互いの近況を伝え合える場とするなど、行事を通じて長期にわたる関係性が継続されている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	自然の素材を採り入れ季節感が感じられ、子どもが落ちついて過ごせる環境の中で、個々の自主性や自発性を尊重した保育を構築している
	内容	園舎の建て替えを行い、園舎内に天然木材を活用して明るく落ち着いた過ごせる居心地のよい環境を整えている。園内は自然物を使って季節感のある細やかな装飾を施し、園庭では築山や泥んこ遊び、砂遊びを楽しんだり、植物や樹木、生き物の飼育を通して子どもの心の安定につなげるほか、命の尊さを感じ大切にしている。保育室やホールを柔軟に活用して、年齢別・異年齢それぞれの取組を行い、活動内容や時間帯により、自由に行き来することで遊びたい場所を選択し、子どもの自主性や自発性を尊重した保育を構築している。
2	タイトル	季節感を味わう日々の食事と生産者と交流を深める体験や、生活の中に織り交ぜられた食との関わりを通して食全般の意欲へとつなげている
	内容	献立内容には毎月テーマを掲げ、子どもたちが季節を感じながら日々の食事を心待ちにできるように、食事提供の工夫に努めている。子どもたちが目で見てわかるように「絵献立」を作成し、家庭に配付するなどして楽しみをふくらませている。また育てた野菜や米、魚の解体や園庭でのサンマ焼き、行事とも関連させた行事メニューなど、さまざまな食の取組を行うほか、提携先の農家とのつながりから食の営みを身近に感じ、試食会では保護者におにぎりや漬物、果物など、日々子どもたちが口にしているものをともに味わってもらおうなどの取組も行っている。
3	タイトル	行事を通して子どもたちの季節感や自然への興味・関心を深め、仲間とともに探求する意欲や達成感が感じられる取組を実施している
	内容	主体性を尊重した日々の暮らしの中で、春夏秋冬の年中行事や継続した遊びから展開する「プレイデー」や、親元から離れ多様な体験を通して仲間との絆を深める年長児の合宿などを展開し、行事によって子どもの生活に季節の節目を作り、日々の暮らしを彩っている。保護者には成長をともに楽しめる場として、コロナ禍での配慮事項を踏まえつつ行事の考案・開催がなされている。また年長児は地域の川での「ガサガサ体験(水中探索)」や合宿での川遊び、星空観察など、自然環境への興味・関心を高めることで探究心が育ち、充実感や満足感につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもたちの自由な遊びを保障しつつ重大事故を防ぐ、現場のリスクセンスを高めるためのさらなる取組を期待したい
	内容	保育中の子どものケガなどの事故と、発生に至らずもそれらの要因となりうるヒヤリハットについて、発生のつど原因・対策の検討と職員間での周知を行い、予防・再発防止を図っている。これらの記録もなされているが、事故・ヒヤリハットの分類や、対応する報告・記録様式の位置づけなどについて、近年のリスク分類の標準的な考え方を踏まえ、再検討することが望まれる。またそのうえで、事例の集計と分析による傾向把握など、子どもたちの自由な活動を保障しつつ重大事故を防ぐための、保育者の危険の予測・察知の力を高めるための取組も期待したい。
2	タイトル	災害・感染症などの発生後の運営継続などを想定し、必要な事柄を計画に定め、組織内に周知を図ることが期待される
	内容	「危機管理マニュアル」に、防災面の対応等のほか、災害発生3日後までを想定し、運営再開に必要な取組などを列挙しており、現状ではこれが災害時の事業計画(BCP)にあたると思われる。記載の内容は簡易的なものにとどまっており、行政の示すひな形なども参考に、災害後の人的・物的両面とも資源が限られる状況下での運営継続などについて、より具体的な計画を定め、組織内に周知させることが期待される。また昨今の社会情勢を踏まえ、感染症等に関する同種の計画についても整備への要請が高まっており、同様に検討を進めることを期待したい。
3	タイトル	「保護者とともに子育てをすすめる」伝統を次代に引き継ぐために、行事などのあり方等を改めて検討することも意義あることかと思われる
	内容	「プレイデー」「バオバブ祭り」「ワークショップ」など、保護者との協働のもとで行われるさまざまな行事や取組がある。これらはコロナ禍後の休止を経て、徐々に再開されているが、例えばプレイデーと他の保育所等というところの運動会との違いなど、行事の意義・目的に関する共通理解、保護者の利便を考慮した週末の行事開催と、職員の家庭生活やワーク・ライフバランスの保障との両立など、新たな課題も認識されつつある。保育の理念にも謳われる「保護者とともに子育てをすすめる」伝統を次代に引き継ぐための、これらに関する検討も期待される。